

コミュニティワゴンの利用状況について

1. データ収集方法

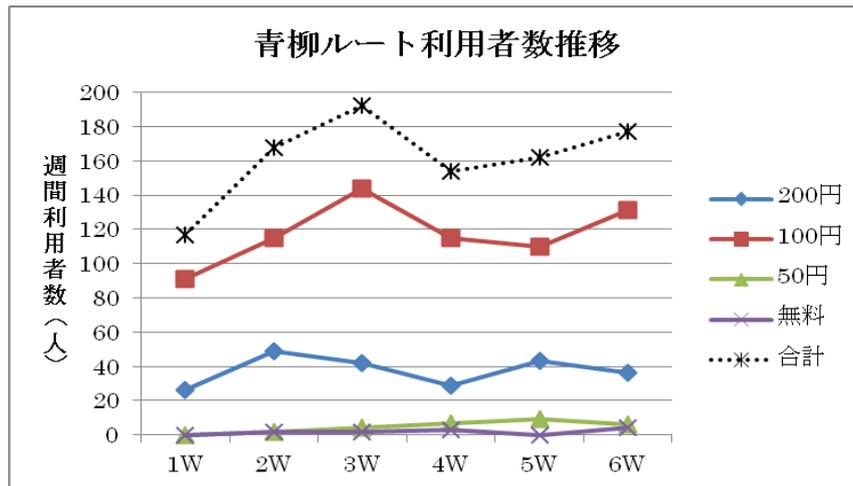
乗務員が、利用客の乗車時に降車停留所を尋ね、その都度記録用紙に記録し、それを運賃ごとに集計している。

2. データ収集期間

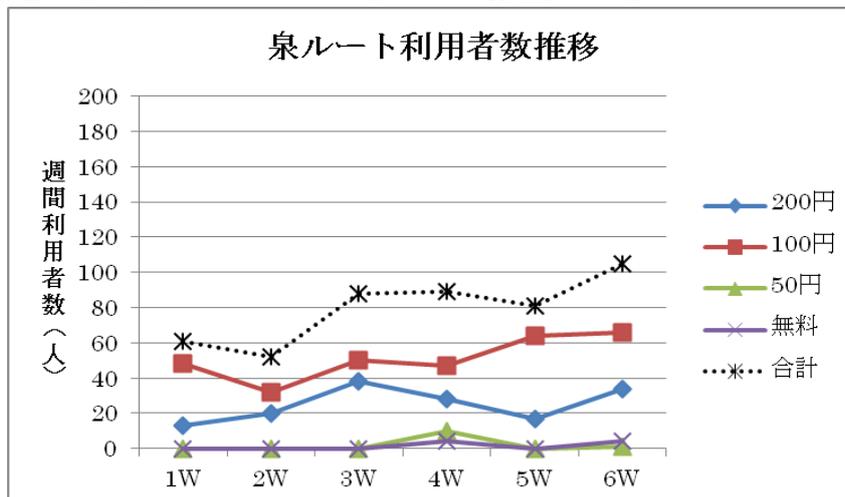
4月16日～5月24日の計34日間（日曜日を除く）

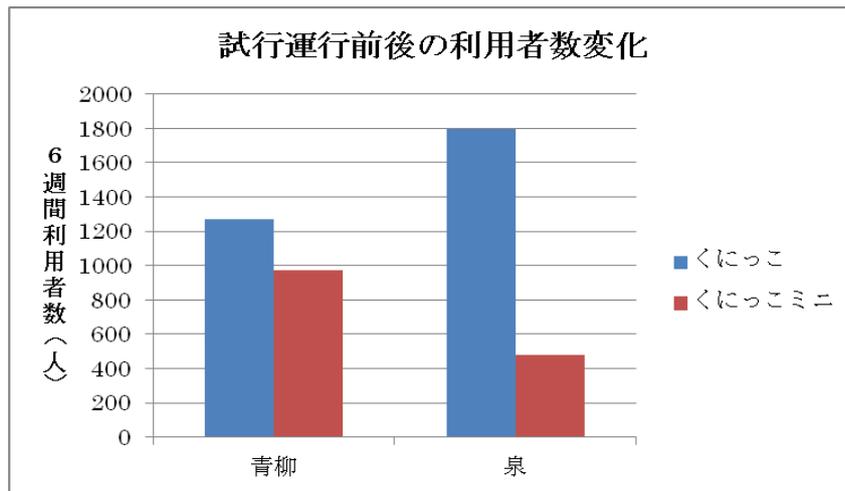
3. 利用客数の推移

青柳ルートについては、旧くにつこ時代の利用者数から減少したが、高齢者を中心に徐々に利用が伸びてきている。

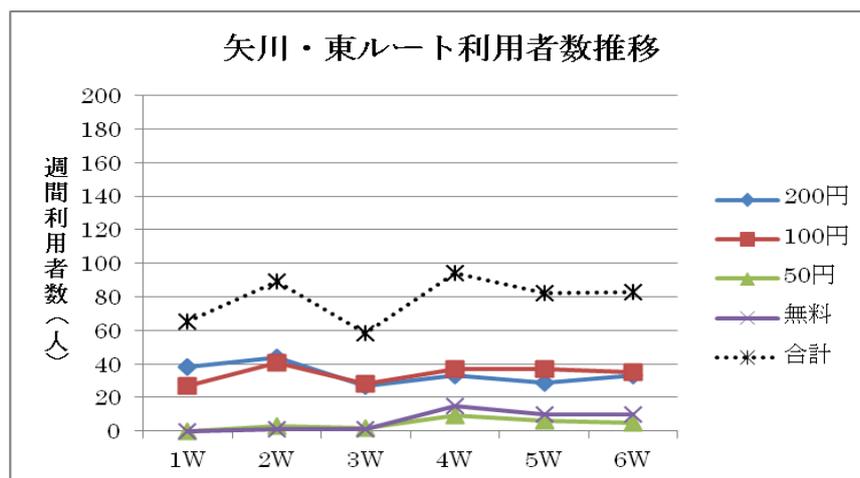


泉ルートについては、旧くにつこ時代と比べて大幅に減少しており、都営泉団地への路線設定がなくなったことによるものと推測される。





矢川・東ルートについては、まったくの新規ルートではあるが、他ルートと比較して200円料金の利用が多く、無料（＝未就学児）の利用も多いことから、保育園の送迎等に利用されていることがうかがえる。



注) 1W=4/16～4/19、2W=4/21～4/26、3W=4/28～5/3、4W=5/5～5/10、5W=5/12～5/17、6W=5/19～5/24

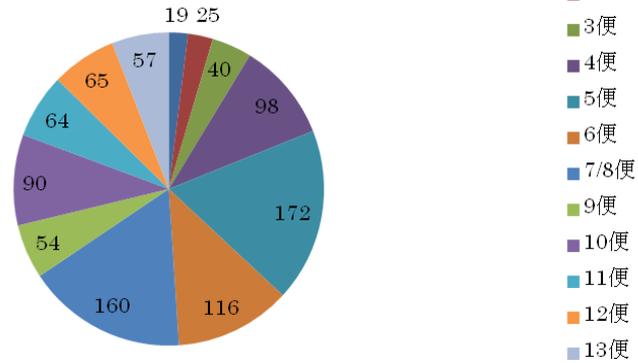
4. 時間帯別利用状況

青柳ルートについては、5便（9:55 市役所発）の利用が一番多く、午後よりも午前中の利用が多い。

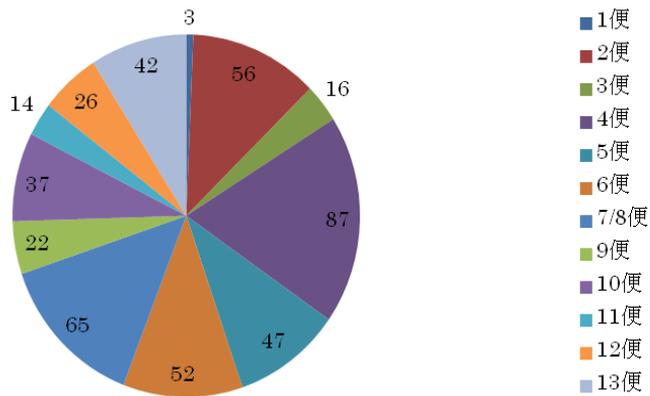
泉ルートについては、4便（9:05 矢川駅発）の利用が一番多く、次いで2便（8:05 矢川駅発）の利用が多い。1便（7:46 ママ下湧水公園発）の利用は極端に少ない。

矢川・東ルートについては、1便（8:30 矢川北アパート中央発）及び5便（12:30 矢川北アパート中央発）の利用が多く、最後の二つの便の利用が比較的少ない。

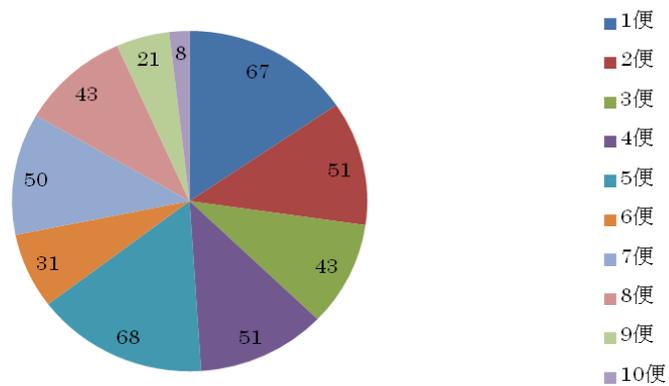
便ごとの利用者数（青柳）



便ごとの利用者数（泉）



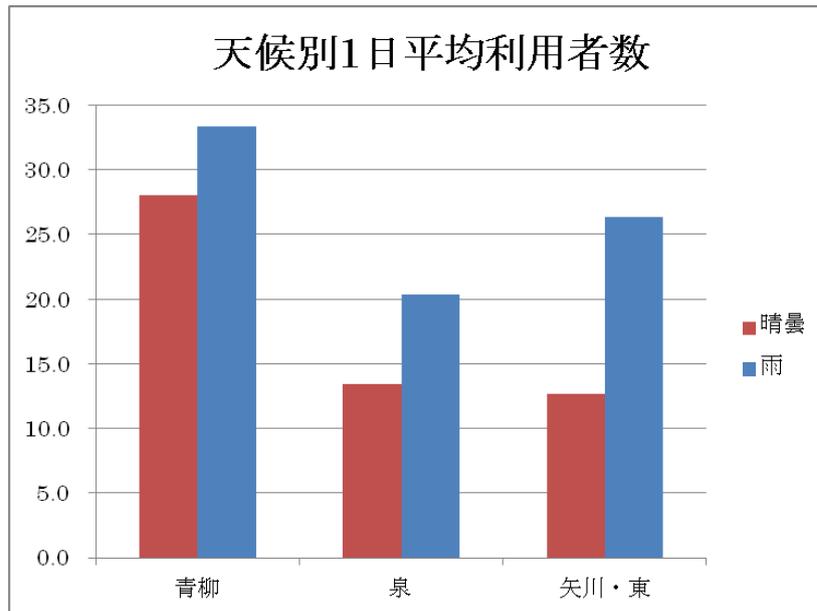
便ごとの利用者数（矢川・東）



5. 天候別利用状況

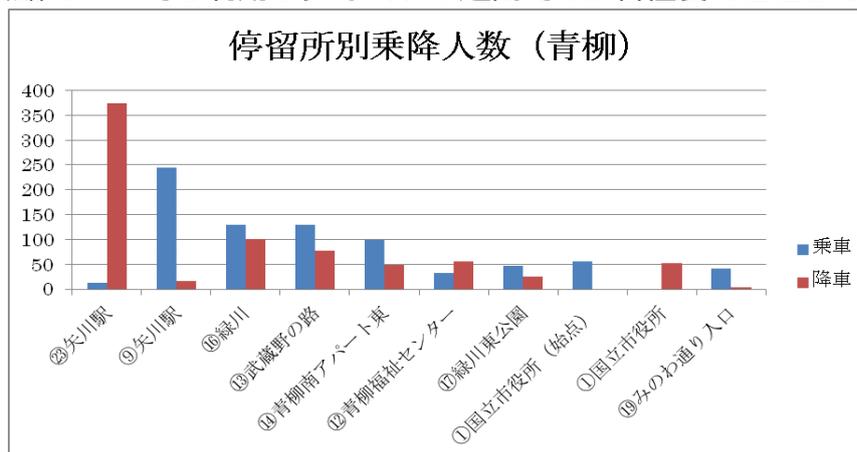
集計期間のうち、雨の日は3日間。3ルートとも晴れの日に比べて雨の日の方が、乗車人数が多く、沿線住民の交通手段の選択肢のひとつとして認識されつつあるということが推測される。

サンプル数として雨の日が少ないので誤差は大きいと思われるが、矢川・東ルートについては「普段は徒歩や自転車で問題ないが、雨の日はバスを使う」層（=比較的若い世代 or 健康な人）の利用が多いと推測される。

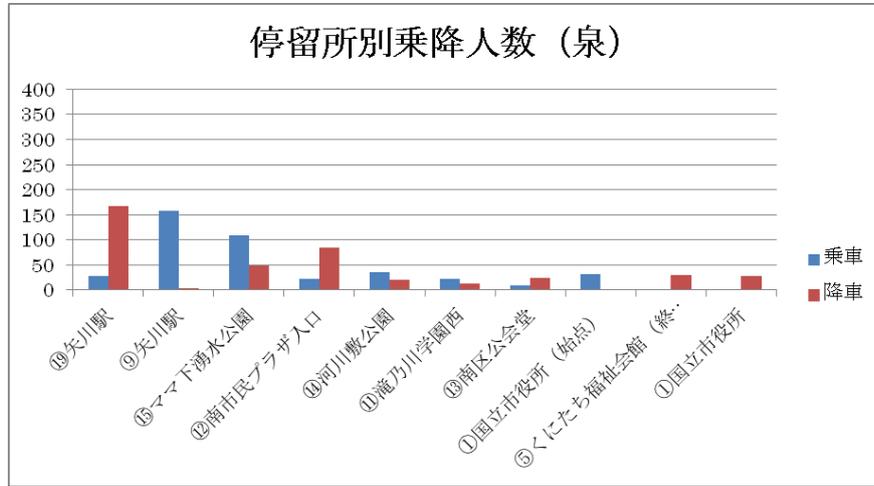


6. 停留所別利用状況

青柳ルートについては、矢川駅が乗降ともに多く、利用者の多くが駅アクセスを目的としていることがわかる。また、今回新たに乗り入れた甲州街道南側に位置する停留所も利用者数としては相対的に多めである。これは、甲州街道を横断することに抵抗のある方（特に高齢者）が多いことによるのではないかと考えられる。一方、福祉会館については利用が少なく、6週間で35名程度にとどまっている。



泉ルートについては、青柳ルート同様矢川駅へのアクセスを目的とした利用が主であると考えられる。ママ下湧水公園で乗車し矢川駅へ行き、用事を済ませ矢川駅から南市民プラザ入口で下車し自宅へという使われ方が多いように見受けられる。



矢川・東ルートについては、総合医療センター南の利用者数が最も多いが、上記2ルートにおける矢川駅ほどは突出しておらず、どの停留所も同じような利用状況にある。国立市役所入口の利用が少ないのは、要望にもあるとおり敷地内に入らないことによるものと考えられる。

